

1 PLAN(目的・概要)

建設整備事業

政策名	安全		26年度事業・施策評価結果		責任者	建設部 事業推進課長	
施策名	港の安全性・信頼性の向上		成果	コスト			
事務事業名	防潮扉(改良)整備事業		継続	拡大	拡大	連絡先 052-654-7921 <small>工事課、港湾工事事務所、施設事務所</small>	
目的	対象(誰・何を)	防潮扉				事業期間	平成20~29年度
	意図(どういう状態にしたいか)	高潮対策として海岸保全施設の改良等を行うことにより、海岸保全施設の機能を強化します。					
概要	整備場所:名古屋港区潮風ふ頭、稲永ふ頭、大手ふ頭、築地・ガーデンふ頭、築地東ふ頭、大江ふ頭、昭和ふ頭、船見ふ頭、潮見ふ頭 内容・規模:防潮扉のアルミ化(軽量化)・壁体化(ランニングコストの低減) 総事業費:6.4億円 事業手法:防災・安全交付金				根拠法令等	社会資本整備重点計画法 海岸保全基本計画	
事業着手時点の評価	海岸保全施設の改良等を行うことで、海岸保全施設の機能が維持され、背後地域の生命財産を守ることができます。				実施義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
27年度の実施予定	大手ふ頭(1扉)、昭和ふ頭(3扉)の防潮扉のアルミ化(軽量化)を行います。				関連シート		

2 DO(実施)

27年度に実施した内容・結果	大手ふ頭(1扉)、昭和ふ頭(3扉)の防潮扉のアルミ化(軽量化)を行いました。					
コスト	単位	25年度	26年度	27年度	合計(平成20年度~)	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	2,500	4,440	108,020	315,260	利用者調整しながら実施しているため、平成27年度は事業費が増額しました。
人件費	千円	6,276	6,519	6,957	52,036	
合計	千円	8,776	10,819	114,977	367,296	

3 CHECK(検証)

指標名	25年度	26年度	27年度	最終目標	29	指標の説明・目標値の考え方	外部要因
防潮扉の改良数(箇所) (進行管理型)	目標	-	46	44	58(累計)	防潮扉の改良(アルミ化)又は壁体化を行った箇所数です。	県整備水準
	実績	40	40	44			
	事業進捗状況(27年度)			順調 やや遅れ・遅れ			
目標の達成度に対する評価(外部要因等を踏まえた)	予定した箇所の防潮扉のアルミ化が完了しました。						
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明					
必要性	事業着手時に比べ必要性が低下していないか?	○ 背後地域の生命・財産を守るため、必要性は高くなっています。					
	事業費規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	○					
有効性	事務事業は、施策達成に貢献するか?	○ 防潮扉の改良による機能強化は上位施策である「港の安全性・信頼性の向上」に貢献すると考えております。					
	期待どおりの成果が得られているか?	○ 防潮扉の改良を行った扉については、閉鎖時間の短縮など防災面での確実性が向上することから、成果が得られていると考えております。					
効率性	最小のコストとなっているか?	○ 設計段階から最小のコストとなるように取り組んでいます。					

4 ACTION(取組)

施策評価結果	28年度以降の方向性		判断理由
	成果	コスト	
延伸	維持	維持	防潮扉の利用者と調整を図りつつ、事業を進める必要があり、全体工程を見直したため。 * 今回の評価にて、事業完了年度を延伸(29→30年度)
	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。		
課題		28年度以降の取組	
扉部は出入口にあり利用が多いため、港湾活動や企業活動に大きな支障が出ないよう、利用者調整を行いながら事業進捗を図っていく必要があります。		着実に整備を進めていくため、劣化が激しく利用頻度の高い箇所から利用者調整しながら計画通り事業を進捗させます。	